令和５年度川崎市化学物質環境実態調査の結果について

１　概要

川崎市では、環境リスク評価を実施するため、有害性情報や、PRTR*データ等を考慮して選定した未規制の化学物質について、市内の大気及び公共用水域(河川水質、海域水質、海域底質)を対象に環境調査を実施しています。令和５年度の調査物質及び調査結果は次のとおりです。

＊ PRTR 制度（化学物質排出移動量届出制度）：有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所外に運び出されたかというデータを把握、集計し、公表する仕組みです。

２　調査物質一覧

(1) 調査物質及び調査媒体

令和５(2023)年度の調査物質は次のとおりです。

表１　調査物質及び調査媒体

物質名	調査媒体				主な用途等
	大気	公共用水域			
		河川水質	海域水質	海域底質	
エチレンオキシド	○	－	－	－	合成原料（エチレングリコール等）、滅菌剤
1,2-エポキシプロパン	○	－	－	－	合成樹脂原料(ポリウレタン樹脂等)等
ナフタレン	○	－	－	－	合成原料、防虫剤等
o-アミノフェノール	－	○	○	－	染料中間体(アゾ系媒染染料)、写真等
N-[3-(ジメチルアミノ)プロピル]ステアルアミド	－	○	○	－	医薬部外品添加物 (薬用石けん、化粧品等)

（注）－：調査を実施していない項目

(2) 調査結果

ア　大気

大気について、これまでの環境リスク評価で相対的にリスクが高い傾向にあった臨海部地域において調査を実施しました。

表２　大気の調査結果

物質名	調査地域	濃度（$\mu g/m^3$）
エチレンオキシド	南部（臨海部）	0.097～0.30
1,2-エポキシプロパン	南部（臨海部）	0.079～0.41
ナフタレン	南部（臨海部）	0.25～0.56

（注）年 4 回調査を実施

イ　公共用水域（河川水質・海域水質）

公共用市域の河川水質及び海域水質について、図１の地点において調査を実施しました。

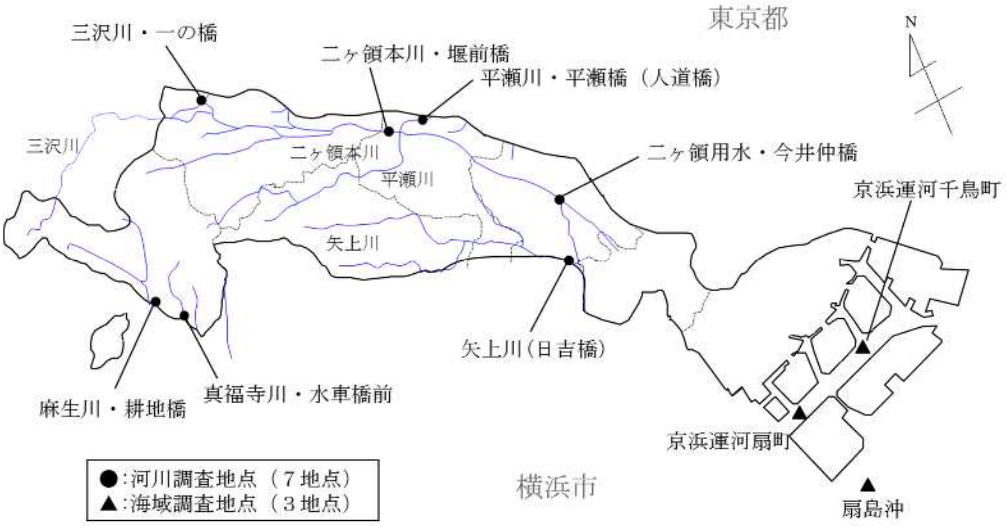

図１　調査地点

表３　公共用水域(河川水質)の調査結果

（単位：μg/L）

物質名	三沢川 一の橋	二ヶ領本川 堰前橋	二ヶ領用水 今井仲橋	平瀬川 平瀬橋	麻生川 耕地橋	真福寺川 水車橋前	矢上川 日吉橋
o-アミノフェノール	0.028	0.016	0.027	0.018	0.081	0.012	0.028
N-[3-(ジメチルアミノ)プロピル]ステアルアミド	0.015	0.037	0.032	0.019	0.0094	0.0040	0.029

表４　公共用水域(海域水質)の調査結果

（単位：μg/L）

物質名	京浜運河扇町	扇島沖	京浜運河千鳥町
o-アミノフェノール	0.040	0.018	0.033
N-[3-(ジメチルアミノ)プロピル]ステアルアミド	0.0028	0.0032	0.0025

（注）表３及び表４共通：o-アミノフェノールについては年１回、N-［3-(ジメチルアミノ)プロピル］ステアルアミドについては年４回調査を実施。N-［3-(ジメチルアミノ)プロピル］ステアルアミドの「測定値」は年平均値。検出下限値未満の数値があるときは、検出下限値の 1/2 として年平均値を算出。